



みみをすます



令和4年1月発行 193

編集：横野 萌香

発行：芦屋翠ホーム

西宮市郷免町4-1

発行責任者：丸山 和幸

Tel：0797-25-7740

新年あけましておめでとうございます。

芦屋翠ホームのご利用者の皆さま、コロナ禍ですが元気に過ごされています。

昨年のお秋からこのお正月にかけてどのように過ごされていたかをご紹介します。

一日も早くコロナが終息することを期待し、今年も一年よろしくお願い致します。

日帰り旅行へ行ってきました 🍷

去る11月29日と12月1日、2グループに分かれて日帰り旅行へ行ってきました。コロナ禍で約2年間大きなイベントごとや、外出などほとんど無くなってしまっていたので、久しぶりのお出かけに出発前から利用者の皆さん（職員もですが…）ウキウキされている様子でした。

大型バスに乗り、奈良県の信貴山にある「柿本家」という旅館を貸切りさせていただき、食事と温泉を楽しみました。豪華な食事をみんなで食べ、温泉にゆっくり浸かりました。普段の芦屋翠ホームの食事ではなかなか見ないようなお料理がたくさんで、旅館の方が料理を運ぶとすぐに食べてしまっている方や、じっくり観察されてから食べておられる方もいて、皆さん思い思いに食事を楽しまれました。準備されたお部屋には露天風呂もついており、希望された方は大浴場とお部屋の2つのお風呂を楽しまれました。今回は来年のための予行演習的な内容でしたが、来年こそは1泊旅行が実現すればと願うばかりです。



クリスマス



♪ケーキをいただきました♪

毎年恒例のケーキの街芦屋より 12月10日ケーキをいただきました。
また 12月23日にはクリスマスランチを実施しました。室内を飾りつけし、クリスマスツリーを飾り、中にはサンタクロースの恰好をした職員もいて、クリスマスの雰囲気を出しました。サンドイッチとジュース、それから保護者会からもケーキをいただいたので一緒に食べました。ケーキの箱を皆さんの前に持って行って開けると「おいしそうだな〜」と思わず口にする利用者さんもおられました。
通常の食堂の食事もハンバーグやローストチキンなど厨房職員の方もクリスマスの雰囲気を出るため、いつもとは異なる豪華メニューを作ってください、今年は“食”で盛り上がるクリスマスとなりました。



口腔衛生研修

皆さんはお口の中のこと…ってどのくらいご存知ですか？
芦屋翠ホームでは週に1回、訪問歯科の方々が来園して下さり。主に利用者さんの歯石や歯垢のクリーニングやフッ素の塗付などを行い、簡単な治療であれば治療も行って下さいます。
先日、その訪問歯科に来てくださっているタニダ歯科の歯科衛生士の方より、職員向けに「専門的口腔ケア」の研修を行って下さいました。“口腔ケア”と聞くと歯磨きが一番に思い浮かびますが、この研修では歯の磨き方だけでなく、誤嚥についてや口腔内を清潔に保つことの重要性を教えてくださいました。口腔内が清潔でないことによって、様々な疾患を引き起こすことがあるそうです。ハブラシや練り歯磨き以外にも様々な口腔ケアの商品の説明もあり、参加した職員は利用者さんのこともですが、自身にも関係する内容に真剣に耳を傾け、スライドの映像に見入り、虫歯予防だけでなく、利用者さんの日々の健康管理のためにも、より一層丁寧な口腔ケア心がけていきたいと感じた研修となりました。

作品展など

芦屋翠ホームは日中活動にて作業や散歩などの他にも絵画や陶芸などの芸術を中心とした活動もあります。絵画は月1回ボランティアの方が2名来園され希望される利用者が参加しテーマにそった絵を製作しています。

また陶芸についてはボランティアの方も週1回来園され利用者さんの製作にアドバイスをいただいています。当施設には陶芸に詳しい職員もいて、ほぼ毎日に近い状況で製作活動も行っています。ところがコロナ禍では行事や販売機会もなくなり製品はたまる一方。そこで今年は12/7(火)~14(火)芦屋市障がい児・者作品展に出展また新規にて芦屋カフェ(芦屋市役所内1階)や昔からお世話になっている芦屋市美術博物館内などにも販路を広げています。令和4年の1月下旬には芦屋市公光町にある、あしや市民活動センターのリードあしやで展示販売する予定です。

お時間あれば是非のぞいてみてください。



赤い羽根共同募金会より

毎年、法人からも各事業所で協力し、年末に赤い羽根の募金に協力しています。実は昨年度より洗濯室の大型洗濯機もよく故障していました。1日1回の洗濯では追いつかないため、数回、毎日回し続けていましたが、さすがに限界に近づいた、その時に赤い羽根共同募金会へ助成金の申請を行いました。結果は助成金をいただくことができ、一部の費用負担にて令和3年の11月に新しい大型洗濯機と入れ替えることができました。本当に感謝・感激しています。利用者さんや職員も喜んでいました。こんな時に助けていただけるので、赤い羽根の共同募金の協力依頼があった際は皆さんもご協力を宜しくおねがいします。



しめ縄飾り

芦屋翠ホーム南館玄関や中門の上部にしめ縄飾りがあります。これは購入したものでなく園芸班の人たちがこの夏に稲から育てたものです。完全手作りのしめ縄、受付にお越しの際は少し視線を上にしてみてご覧下さい。



施設長より

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

2021年何とか東京オリンピックは開催できましたが、しかし何かと話題は新型コロナウイルスに持っていかれがちで「感染者数は増加」や「緊急事態宣言が…」などと連日、報道やネットニュースでみると気持ちも萎えてきます。少しでも“前向き”に考えたいと「緊急事態宣言が解除となります。」と聞いた途端、利用者さんの感染リスクのことも当然考えましたが、それ以上に毎日同じ景色をみる閉鎖感、利用者さん・職員それぞれのストレスのことも考えると「行ける時に行くべし！」と決断し、日帰りではありましたが、旅館・バス会社ご協力の下、久しぶりに旅行を企画・実施することができました。結果は利用者さん、職員共々少しは喜んでもらえたかと感じています。また、日帰り旅行の関係で規模は縮小しながらもクリスマスの雰囲気も味わえ少しずつではありますが、昨年とは違った変化のついた年末となりました。

皆さんは“ジャンナーの法則”をご存知でしょうか？人は経験したことがないことを行っているときは、それらが意識の中に強く残り時間を長く感じさせ、その反対に、何度も経験し慣れてしまうと時間の長さが気にならなくなり時間が早く過ぎたように感じさせます。

子どもの頃は初めて体験・経験することばかりが多く、毎日が新鮮で新しい出会いや発見がありますが、大人になるにしたがって、新しい経験をする機会が失われます。大人になると時間が“あっ”という間に過ぎ去ってしまったと感じるのは、日々の生活に新鮮さがなくなるからだ…といわれています。

この約2年これまでに経験したことのない未知の感染症に戸惑い、先行きの見えない制限ばかりの生活を強いられ、身体は楽でも心が不健康だったように感じます。入所されている利用者さんは経験不足なことも多く、また世話好きな職員も悪気はないのですが先々に手伝ってしまうことで利用者さんの体験機会が奪われてしまうこともあり、毎日が長く感じていることと思います。色々な経験・体験を積み重ねること、職員たちがサポートして利用者さんたちの毎日が少しでも充実し楽しい時間が“あっ”という間に過ぎる一年であることを願って今年も支援してまいります。

私自身が1日、1年が“あっ”という間に過ぎ去ってしまったと感じるのは、悲しいかな、単なる年のせいですかね。今年も何かと忙しく頑張ってまいります。